

## 第5学年 社会

【地域に伝わる伝統が工業に活かされていることに気づき、工業の発展について調べる意欲を高める姿】をイメージした授業

油井小 小野 真樹

### 1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1 本時	見通す	・ 二つの製品の価格が大きく違うのはなぜか考えることを通して、伝統や優れた技術を生かした工業があることに気付いている。	・ 価格が大きく違うのはなぜか考え、調べようとしている。（思・判・表）（態）
2	教わる 考える	・ 北陸地方の工場では、昔から伝わる技術をどのように生かしているか調べている。	・ 資料から必要な情報を読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解している。（知・技）
3	教わる 考える	・ 大田区では、優れた技術を生かして国内外で評価されるような製品をつくっていることを調べている。	・ 資料から必要な情報を読み取り、優れた技術を生かした工業の様子について理解している。（知・技）
4	考える 対話する	・ 日本の工業には、資源の確保や人口減少、環境への配慮など、様々な課題があることを調べ、新たな取り組みをしていくことが必要であることについて考えている。	・ 資料を読み取り、日本の工業生産の課題について考え表現している。（思・判・表）
5	考える 振り返る	・ 工業生産の学習について振り返り、特色についてまとめている。 ・ これからの工業生産のために大切なことについて理由を明確にしてランキング形式にして考えている。	・ 学習したことをもとに、これからの工業の発展に大切だと思うことを考えている。（思・判・表）



### 2 本時における研究の視点

#### 視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学び 自分事として捉える指導の工夫】

- ① 同じように見える製品の価格を提示し、児童の認識のずれから課題意識を高める。

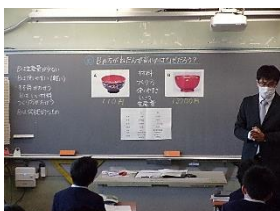
- 価格の違うお椀の写真を提示して価格の違いの理由について考えさせ、どうして同じような製品でも価格に大きな違いがあるのか、生産量や作り方などの違いに気付かせることで、本時の問いをもたせる。

② Bの方が値段が高いのはなぜだろう？

<p>A</p>  <p>110円</p>	<p>材料 作り方 使いやすさ 生産量</p>	<p>B</p>  <p>13200円</p>
--	-------------------------------------	--

Bは生産量が少ない  
 Bは使いやすい（軽い）  
 材料がちがう  
 Bはいい材料  
 作り方がちがう

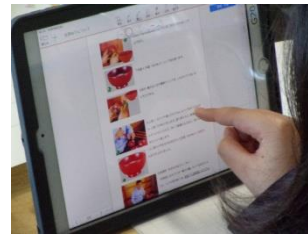
- 課題を解決するためには、どのような情報を集めればよいか話し合い、調べることを焦点化することで、解決への見通しをもたせる。



T: 価格が違う理由を考えるためにはどんなことが分かればいいのか？  
 C: どこで作っているか。  
 C: 材料は何か。  
 C: 作り方のちがい。

- ② 福島県の伝統的な工業を取り上げ、昨年度までの学習と関連性や連続性をもたせることで、技術を生かした工業への関心を高める。

- 価格が高い方のお椀は伝統的な技術を生かした会津塗の製品であることを伝え、製造工程を調べさせることで、多くの手間や工夫があることに気付かせる。



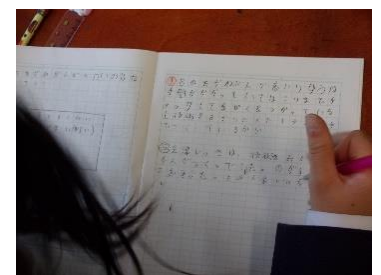
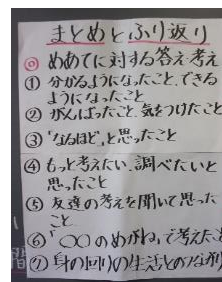
C: 一つ一つ手作りしているね。  
 C: ほこりが入らないように気を付けているよ。

#### 視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

##### <振り返りの視点>

- ① 「なるほど」と思ったこと
- ② もっと考えたい、調べたいと思ったこと
- ③ 身の回りの生活とのつながり

本時の学習を振り返ることで、生活に身近な工業製品の見方を考えたり、他の製品や地域はどうかなど、調べる際の視点を増やしたりすることができるようにする。



##### <児童の振り返りから>

- 同じような物でも技術をみがいた人が作ることで値段が高い。家にもそういう物があるか調べてみたい。
- 会津漆器は400年も前から続いていてやっぱりすごいと思った。ほかにも同じように昔から続いている物があると思うので、これから調べていきたい。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

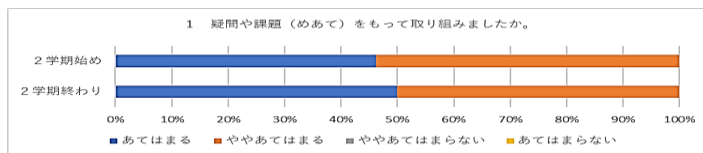


↑ 本時で特に振り返ってほしいことを提示し、焦点化した。

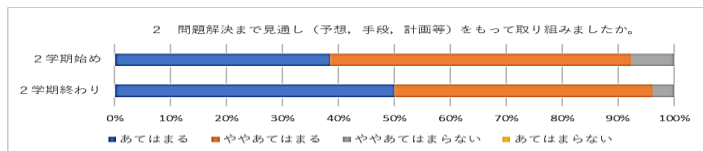
← 本時の問いを引き出すため2種類のお碗の写真を中心に提示して比較させた。

3 アンケートの結果から

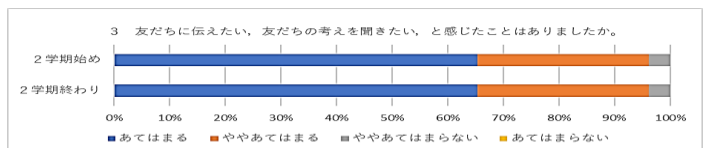
① 関心・意欲、課題意識



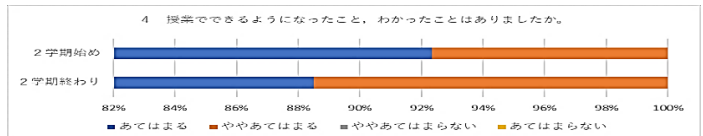
② 見通し



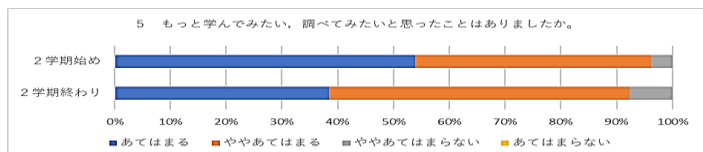
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ 本小単元は、これからの工業について様々な視点から考えていく大単元のまとめの単元である。そこで、児童が前学年の社会科や国語科で学習してきた

いる会津漆器を取り上げ、学習に関連性や連続性をもたせることで、課題解決への意欲を高めるようにした。また、お碗という生活に身近な工業製品を扱うことで、課題を自分事として捉えることができるようにした。アンケートの結果①②を見ると、課題意識や見通しをもって取り組むという意識が高まり、課題を自分事として捉えている様子が伺える。

● 本時では、児童が予想を立てて話し合うなど、調べるための見方を広げる様子が見られたが、実際に調べ始めるまでに時間がかかった。そのため、児童の見方が広がりつつある段階で資料を提示し、実際に調べる活動を十分に確保することにより、資料から根拠となることを見つけ、根拠をもとに考えを深める学習につなげることができると考える。

【視点Ⅱ】

○ 本時では、特に「身近な生活とのつながり」を中心に振り返るようにしたことで、家庭にある工業製品を見直す姿が見られた。児童は社会的事象を見るとき視点をもつことができた。

● アンケートの結果④⑤を見ると、学びを実感する振り返りが十分にできていないことが伺える。身近な生活との関わりに目を向けている振り返りや次時への意欲を高めている振り返りを取り上げることで価値付けを図り、次時の学習や新たな学びへの意欲を高めていくことが必要である。

実際の指導案はこちらへ